

『いきなり、うちゅうひこうし』

セントラルケンタッキー補習授業校（ケンタッキー州）

小一 まつざき 松崎 れいな 玲奈

（海外滞在年数四ヶ月）

三月に、ようちえんを、そつえんしてアメリカ、ケンタッキー州にきました。

五月から、アメリカの、しょうがっこう、一年生のクラスに、かようことになりました。

がっこうに入って、さいしょの日、せんせいから「らいしゅう、スペリングテストがあります」

と、言っ、かみを、わたされました。

まだ、CATキヤットしか、かけないわたしの目のまえには、いきなり、うちゅうひこうしアストロノットや、おいつこネフイユー、八月オーガスト、むすめドーターなど、みたことのない、えいごが、ぜんぶで十こ、ならんでいました。

やりたくない！と、おもいました。

そうだ！せんせいが、スペリングテストがあります、と言ったのを、わからなかったことにすればいい。もし、わたしが一こも、かけなくても、きつと、せんせいは、ゆるしてくれる、とおもいました。

「いやだ、やりたくない」

と、大きなこえで、言いました。

すると、おかあさんは、

「おかあさんも、こどものころ、ニュージーランドにすんでいたとき、スペリングテストが、大きらいだった。いつも、にげていた。」

でもね、ほかのテストは、なにがでてくるか、わからないけど、スペリングテストは、かならず、この十こがでるって、さきに、わかっているんだよ。この十こさえかければいい、おいしいテストだったのに、いまから、かんがえると、おかあさん、もつたいないことしたなつて、おもうよ」

と、言いました。

そして、

「おぼえかた、おしえてあげるから、おかあさんといっしょに、がんばろう」

と、言ってくれました。

それから一しゅうかん、まいにち、がんばってばんきようしました。おかあさんが、よみかたも、スペルのおぼえかたも、おしえてくれました。

トイレのかべに、おおきくかいたかみを、はってくださいました。

おかあさんが、せんせいになって、えいごをよんで、わたしがかいて、いえでなんども、なんども、スペリングテストを、してくれました。

テストの日のあさ、がっこうにつくまでのあいだ、くるまの中で、もういちど、おかあさんといっしょに、おさらいを、しました。

おかあさんが、こんなことも、言っていました。

「日本人は、あいうえおを、五十こもおぼえなくては、いけない。カタカナを入れると百こ。かんじも入れると、ものすごいかずになるけど、アメリカ人は、アルファベツトは二十六こしかないんだよ。

あなたは、ひらがなも、カタカナもかけるし、かんたんなかんじも、かけるんだから、たった二十六このえいごなんて、かんたんよ」

そのことばをきいたら、きゆうに、ゆうきがわいてきました。

テストは、ぜんぶかけました。
百でんでした。

せんせいが、てんすうのよこにAプラスをかいてくれました。よくみると、プラスが五こも、ついていました。いえにかえって、おかあさんにみせると、びっくりして、

「Aプラスファイブは、おかあさん、はじめてみたよ」と、言いました。

ギューと、だきしめてくれました。
いっぱい、いっぱい、ほめてくれました。

そのテストのかみは、キッチンのかべに、はってくれました。

テストが、終わったあとでわかったことがありました。それは、アメリカは、五月で、学年がおわってしまうので、それは、一年生さいごのスペリングテストでした。

わたしが、アメリカのがっこうの一年生に、入って、さいしょで、さいごのスペリングテストでした。

やってよかった！ にげなくて、よかった。

きつと、にげることは、かんたん。なにかにチャレンジするときは、こわいけどわたしだって、やればできるんだ。

にげるのではなく、チャレンジすることをおしえてくれたおかあさん、ありがとう。

いきなり、うちゅうひこうしでも、ちゃんとできたよ。